

ほうは新たな水を求めてきておる部分もあります。

あと、今おっしゃられた10数円の、19円という単価というのに対抗していくためにどのようにしていけばよいかというのはお互いが知恵を出さないといけないと思っておりますし、全体で一つの事業だけを見たときに赤字が出る、しかしそれをすることによって林業の施業が進むことによって、今度は雇用が生まれてくるとかいうことになったときに、そこ全体の中でどれだけのプラスに効果が出てくるかという見方をしていくのが、これからその循環の中で物事を組み立てていく大事な方針になっていくのではないかというふうにも思っております。

○議長（作元 義文君） 11番、小宮教義君。

○議員（11番 小宮 教義君） そういうふうにして公約があるわけですが、公約が無駄にならないように、言うだけ言うて終わるといことがないようにお願いしたいと思います。

以上です。

○議長（作元 義文君） これで11番、小宮教義君の質問は終わりました。

○議長（作元 義文君） 暫時休憩します。再開を2時15分から行います。

午後2時02分休憩

午後2時14分再開

○議長（作元 義文君） 再開します。

次に、17番、大浦孝司君。

○議員（17番 大浦 孝司君） それでは、通告に従い、市政一般について質問を行います。

第1点でございますが、対馬の高等学校の選択科目について、市長の御意見を伺いたいと存じます。

対馬3高等学校の入学試験における志願倍率は次のとおりであります。対馬高校普通科定員160人に対し134人の志願者、競争率0.9倍、商業科定員40人に対し37人、0.9倍、豊玉高校普通科80人に対し15人、0.2倍、上対馬高校普通科80人の定員に対し43人0.5倍となっております。この数字は、3月7日放映のCATVによるところをメモにしたものでありますが、対馬の過疎化がこのように至った一つの原因と思っておりますが、3校の存続の危機をだれもが心配するところであります。

ちなみに3校の卒業生の島内の就業状況は、22年度実績でございますが、対馬高校が19人、豊玉高校が11人、上対馬高校6人となっております。あまりにも少ない実態にこの島の将来を心配するところではありますが、何か策はないものかと思う次第であります。島に仕事がない、島で働く魅力がないなどの理由で本土へ巣立っていくのでありましようが、果たしてそれで済ませ

てよいのでしょうか。

そこで、島に仕事がないということに触れてみたいと存じます。島内の医療、とりわけ看護職員は平成22年度の調査資料では402名に上っております。新病院のオープン時には20人を超えて不足が生じるとの情報を聞き及んでおります。また、介護施設の8社会福祉法人を中心に介護職員の資格者は381名、無資格者を含め約500人の雇用がおるものと見られております。これらの従事者の方々には50歳を超える方も多く、新旧交代が見込まれるところでもあります。

ところで、普通高校を卒業し、島外の看護学校へ通い、資格を得るためには正看で4年かかり、親の負担はさらに大きなものになります。対馬の高校の科目、これは対馬3校の科目であります。まず、対高、商業科の40名、普通科の国際文化交流コース20名を除けばすべて普通科であります。現代社会は以前と違って大学卒業者でも就職の約束はありません。専門技術を取得している者が有利な就業展開をしていると言われております。そこで対馬の高等学校のどこかに医療・介護分野の専門科目を新たに導入することを検討し、実施に向けて対馬の3高校、医療機関、介護施設関係者、行政が一体となって話し合いを今後持ってもよいのではないかと思います、市長の意見を伺いたいと存じます。

長崎県下では公立高校で看護師の資格を目指す者を対象に衛生看護科を設定し、40名を離島の五島高校では設定をしており、既に28年の歳月が過ぎております。県下唯一の衛生看護科であります。1年生では基礎学習及び施設実習、1年目は特別養護老人ホームでの実習であります。2年生になりますと文系、理系の学習のほか、病院実習事業が開始されます。3年目には進学に応じた学習と病院実習を行い、卒業間近の2月の第3金曜日に、五島振興局において准看護師の資格試験を行う課程であります。いただきました資料によりますと、28年間の実績であります。ほぼ100%の合格率であったことが記載されております。

また、その背景には、五島中央病院での充実した実習が行われたことが記載されております。若い者が1人でも多くこの島に生き残ることが一番大切なこととあります。高校生活を有意義に過ごし、資格が取得できるシステムを構築し、島の活性化の一つとして取り組んでほしいと思っております。改めて市長の御意見を伺いたいと存じます。

次に、磯焼け対策についてお尋ねします。

対馬沿岸の磯焼けの原因は、学者の間で根本的な原因は不明とされており、結論づけてはおりません。通常、いわゆる通常の原因は水温の上昇のほか、ウニの大量発生、巻き貝、魚類による海藻の食害が原因の一つと言われております。魚類による食害であります。その対象魚は主にアイゴ、アイバリですね。ブダイ、イスズミ、その魚種は植食性が非常に盛んで被害につながっておると言われております。本来であれば、これらの魚類は徹底して釣り上げ、または網でとる

なり対策を講じなければなりません、しかし、これらの魚は安価で漁民もとろうとしないため、さらに増殖する悪循環になっていると言われております。

ある漁民の方より、このことについて対策を講じてほしいとの御意見がございました。しかし、磯焼けの原因は自然界の多種の要素から起こっており、学者もはっきりしたことを申し上げない難しいことではありますが、このたび取り上げました魚類に対し、講ずる対策がありましたならばお聞きしたいと思いますが、市長にこの答弁をお願いいたします。

以上です。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 大浦議員の御質問にお答えさせていただきます。

1点目の高校の選択科目の問題がありました。今回の志願者数、議員が今おっしゃられたように、3校とも大変な状況です。これにつきましては、根本的には人口が減少する、雇用の場がない、基幹産業である漁業も不振である等々、複合的な原因がそこに重なって、このような状況になっております。

そういう中、大浦議員のほうから御提案がありました医療・介護等の学科というものを新設してはどうかというふうなお話であります。当然これは県立の学校でありますので、県教委との相談になってまいります。私どもの今後の島の生き方というものと照らし合わせながら、高校で必要な科目というのをどこに求めていくのかということを実際に考えなくてはいけないというふうに思います。

先ほど、五島高校のお話がありました。二十数年もずっとそこから看護師さんを輩出してきているという話を聞くにつけ、先見性の高いことだなというふうに思いますし、これから先、先ほども申しましたように、我が島がどこに向かうべきなのかということをしかりととらえていきたいと思っております。当然、高校の定員を満たし、また親元から学校に通うというのが最も望ましい姿だろうと思っております。

また、今の3校の存続ということは対馬にとって重要なこれは今後課題になっていく問題であります。さまざまな問題が山積しておりますけれども、子供たちにまた密着したこれは問題であります。県教委のほうともしかりとこのことについては協議を重ねていきたいと思っております。

来年すぐにはできるとかいう話ではないとは思いますが、やはりそこは島の方向性とか市民の覚悟というものもそこにはどうしても出てくる問題だと思っております。そういう意味において、大浦議員がおっしゃられました衛生看護科のお話、大変島における高校教育のあり方を考えていく上においても、その地域振興と相まって考えていく上においても大変興味深いアイデアだと思っておりますので、しかり今後県教委のほうと早速協議をさせていただければと思っております。ありがとうございました。

次に、磯焼け対策なんですけど、これにつきましては一番難しい問題です。そういう中、アイゴ、僕らはバリって言うてる、ああいう魚です。大変安価で、極端に言えば、もう沖で捨ててるような魚かもしれませんが、それをきちんと捕って行って、そしてそれを使っていくということがすごく大切だと思っております。

実は私、来週、県のほうに出張する用務があるんですけども、そのときに総合水産試験場の中にあります、これ片仮名で申しわけないんですけども、オープンラボラトリーという何か施設があると聞いておりますけども、そこを見学に行くようにしております。

そういう中、このような御質問がちょうどあったわけですけども、水産試験場に行ったから磯焼けがとまるという問題でもありませんけども、どのようにしていけばいいのか、するのが最もよいかということの県のほうとも一緒になって取り組んでいきたいと思っております。

磯焼けの原因というのが難しい、特定できないという中で、私ども水産課としましては、24年度魚礁関係に8,000万ほどの事業費をつぎ込んで4カ年、3億2,000万ですか、やっついこうというふうな考えもあります。県がやっておりました浮き魚礁がありますが、あの浮き魚礁の距離というのもちょっと問題かなと思っております。新たに市としても私としては取り組んでいきたい問題でもありますし、水産資源をどうかして復活させていくということが私どもの対馬の生き残りの大切な部分だと思っておりますので、この磯焼け対策同様、一生懸命取り組んでいかせていただきたいと思えます。

また、大浦議員におかれましては、有害鳥獣等々でのさまざまなノウハウをお持ちですけども、陸の有害鳥獣のみならず、海のほうのこの有害な部分においても知恵を出していただければ、私どももそれでやることはしっかりと取り組んでいきたいと思っておりますので、よろしく願いをし、答弁にかえさせていただきます。

○議長（作元 義文君） 17番、大浦孝司君。

○議員（17番 大浦 孝司君） 先ほどの高等学校の件なんですけど、豊玉と上対馬の件はこのままいけば閉校するかもしれないという危機感は以前から言葉であったわけですが、その前に普通高校を卒業された方が、進学者に限りのことなんですけど、やはり資格を持たないとこの日本の社会では職につけないというふうなことが特にあると思えます。対馬においても一緒です。そのまま介護の施設に入って、もちろん無資格でもできますが、お互いに資格持った方と給与の条件が違う、だから負けたくないからおりにたくないということになるわけです。せつかくの職場が1,000人近い看護婦と介護職員の数はございます。この職場をやはり地元出身の高校生が、特に女性の方が多いと思えますが、資格を取っておれることを、仕組みということが、これ私は教育を進める立場の中で築かならん、そういうふうにしたほうがいいということの思えば、県教委と言わず高校3校、そして医療関係、そして介護関係の関係者を一体になりまして、市長と

教育長が音頭とりまして、そういうふうなことを私はずひとも進めて、これで准看護婦の資格を取れば、まず就職が安泰だと思います。さらに正看を目指すならば、あと2年の学校の課程を出るだけでよいわけです。通常であれば、普通高校から4年間専門看護学校に通って、初めて正看ということになります。大変なことです。その点につきまして、再度市長、私はこの問題をもう少し医療機関、介護関係の分野と足元の話し合いをしてみたらどうかと、かように思いますが、御意見を再度伺います。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 今、大浦議員がおっしゃられたように、高校と医療関係、それから介護等々の会議を行政が音頭をとってやって、今後のその需要の方向性というものをしっかりとらえ、そしてそれに対する教育機関というものの必要性っていうのを確かめる必要があるんじゃないかというお話、確かにそのとおりだと思いますし、私ども現場のそこの話というのは、まだ聞いていないのが事実ですので、一度そのことについて高校存続と絡め合わせながら話をしていきたいと思えます。そして県教委に相談に行くという順番にしていきたいと思えます。

○議長（作元 義文君） 17番、大浦孝司君。

○議員（17番 大浦 孝司君） 前向きな答弁で私も期待をして、この4年間の取り組みの中の必ずこの体制の中で、私はこれを成功させていただきたいと、そしてひとつ最後にこのことについてメッセージがありますが、現場の医療関係の中核もしくは介護関係の責任者はこのことを待っております。非常にそうなれば、非常に対馬がよくなるというふうな期待をしております。そういう実態を8福祉法人、もしくは病院関係者とまず話されて、それからまたその気持ちも高まると思えます。ぜひともこの4年間のうちにこのことを何とか私はすり込んでいただきたいと思います、その期待とお願いをして、この問題は終わります。

それと、磯焼けにつきましてちょっと申し上げます。私は海の専門ではございませんが、漁師さんを思ってどうかして、事をなし遂げていただけんかというふうな思いがございます。

これちょっと申し上げますが、漁連のほうに、このアイゴ、ブダイ、イスズミを聞いたところ、1キロ100円にならないというふうなことを聞きました。アイバリで例えた場合は、1箱10キロぐらいの魚を箱に入れて、氷詰めして、わずか黒字が200円、福岡の魚市で手取り200円、ですから、持っていく魚としてはだれも出さないというふうなことが実態。ましてやブダイとイスズミは、漁連としては、福岡魚市としては出していただきたくないという、こういうふうなコメントでございました。これは漁連の職員から直接聞いております。

そこで、水産試験場の場長さんとお話しまして、御意見を聞きました。そうした場合、1キロ200円の単価設定をまずして、その中でこの魚を対馬の中で加工するか、あるいは学校給食に持っていく、この仕組みをどうつくるか、このようなことを申されましたが、できれば私はここ

のきょうは市長の答弁をいただいておりますが、農林水産部長、ここらについて何か今まで話し合いがあったかどうか、ちょっと余分ですが、議長、水産部長の意見を伺いたいと思いますが、市長でも結構です、その件について。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 農林水産部長にも答弁させますが、その前にちょっと。アイゴの話ですけども、私どものこの北部九州では食するという、あまりそんなに多くないわけですけども、沖縄のほうでは、このアイゴについて食べるという風習もあり、きちんとした値段で取引されているというふうにも聞いております。そのときに柑橘系のエキスである臭みといいますが、臭みを取り除いていくという方法もあるというふうにも聞いております。いろんな加工、新たな特産品としてこれからも見直していけるのではないかとこのふうにも考えますので、多くの方々の知恵をお借りしながらやっていければというふうにも思います。

そういう中、対馬の中でも既にインターネットを使って、バリの開きを販売をされてる方もいらっしゃるというふうにもお聞き及んでおります。

○議長（作元 義文君） 農林水産部長、比田勝尚喜君。

○農林水産部長（比田勝尚喜君） このアイゴの学校給食への利用ということでございますけども、私もはっきりしたことはまだ確認はしておりませんが、以前、給食のほうで利用するということが研究がされた。ただし、まだ具体的には進んでないということも聞いております。

それとまた、今市長のほうからも答弁がありましたように、最近はこのアイゴをダイダイ等の柑橘系のエキスで処理すれば臭みがとれるというようなことで、最近料理法も進んでおりますので、ここら辺でまた再度学校給食のほうへの利用ということで検討を進めてまいりたいというふうに考えております。

○議長（作元 義文君） 17番、大浦孝司君。

○議員（17番 大浦 孝司君） 前向きな考えなんですけども、実は水産試験場の場長さん、所長さんの御意見では、100円という単価は漁民にとっても非常に厳しくて、捕ろうとすることを問題であろうと、しかしこの問題を避けて磯焼けの一つの悪い分子であれば、徹底的にその単協の範囲で事を徹底し、一部成功すればこれを報告するなり、皆さんに知らしめることは非常にいいことじゃないかと、それで200円の単価設定をするべきであろうというふうな御意見です。

そしてもう一つ、この種の魚の商品開発、これをどこでするかというふうなことを上げたときに、豊玉、水崎、加藤の豊玉振興公社が唯一の公の、公といいますが、行政が関わった範囲の研究開発所です。ここでひとつその研究をさせたらどうかというふうなことで、私はけさ電話を入れました。

そしたら、村瀬所長が、責任者ですが、振興公社はそのためにありまして、ぜひともそういう

ことがあれば受けてみたいというふうな話をありまして、立派な意見がありました。水産部長で結構なんです、離島漁業再生支援交付金の活用が、例えば100円しかないバリエーションを200円の値段設定にする、そして漁民の持ってくる集約の意欲を出される、その開発研究に対する経費の支出、これは可能なんですか、24年度の事業として。できれば市長でも、部長でも結構なんです、そのことをちょっと問うてみたいと思います。

○議長（作元 義文君） 市長、財部能成君。

○市長（財部 能成君） 今御提案ありました漁業集落再生交付金の活用はできないかというお話ですが、基本的に漁業集落再生交付金というのは、私が聞き及んでいる範囲におきましては、集落という単位で物事をやるものですから、行政側がこれこれに、仮に3億円のうち1%は使うよとかいう形でまずそれを拠出してもらうということは、制度としては不可能だというふうに思っております。

もし皆さんがアイゴの話、それからそれを買い上げる、そして給食に持っていくという、その一部仮に豊玉振興公社が加工をして給食に入れるということになれば、それについて今地場産品の学校給食に使うという話で予算化はしておりますけれども、そういうのを使うということが、利用しながらそれを組み立ててみるということは研究に値するのではないかとは思いますが。

○議長（作元 義文君） 農林水産部長、比田勝尚喜君。

○農林水産部長（比田勝尚喜君） 再生交付金の件でありますけれども、現在37集落でこの再生交付金を利用されております。この中で今16地区が何らかの磯焼け対策を実施されております。特に、巖原の阿須地区では、チビキという、これも食害魚らしいんですけども、そこら辺の防除をやられているということでございます。

それと、このことにつきましては、新たな取り組みでやれるというようなことを聞いております。

それとまた、この環境の交付金、離島の交付金以外に環境生態系事業というのが現在3地区、内院地区、そしてまた小綱、水崎地区で行われておりますけれども、この中で内院地区が約アイゴを平成22年度は705キロ、平成23年度は約640キロ程度を漁獲されているというようなことで、ただし現在はまだ利用方法がなかなか確立されていないということで、自家消費のほうへ現在のところは回っているというような状況でございます。

○議長（作元 義文君） 17番、大浦孝司君。

○議員（17番 大浦 孝司君） 私は商品開発や大量の販売に向けてのことができる仕組みを、今回、せっかく漁民の思いですから、それに関わって、いつの間その行方を追ってみたいと思います。きょうこの場で事を終わるんじゃなくて、6月あるいは9月の長期にわたってそのことを、もし新しいことがあればもっと勉強して皆さんと協議したいとかように思います。

ちょっと早いようでございますが、私の一般質問は、前向きな回答で、言うことがございませ  
るので、これで終わります。(笑声)

以上です。

○議長(作元 義文君) 以上で、大浦君の質問は終わりました。

---

○議長(作元 義文君) 以上で、予定の市政一般質問は終わりました。

本日はこれで散会いたします。お疲れさまでした。

午後2時47分散会

---